

シンポジウムⅡ

ポストモダンの自治体政策を考える：「選択と集中」から「公共イノベーション」へ

[趣旨]

モダニズムからポストモダンへ、自治体財政・政策立案も「あれかこれか」「選択と集中」に象徴される戦略的マネジメントから官民連携や市民主体、協働を通じた「公共イノベーション」を意図するようになっていく。本シンポジウムでは、公共領域における「オープン・イノベーション」ともいえるべき、ホールシステムアプローチ（特定の課題やテーマに関わるすべてのステイクホルダーまたはその代表者たちが一堂に集まって話し合い、全体のコンテキストを共有しながら、創造的な意思決定やアクションプランを生成する方法論）、ソーシャルデザイン（行政や地域社会の多様な人たちが関わり合い自由な発想で社会を良くする活動をデザインすること）、フューチャーセンター（未来思考で対話し、変化を起こして行くための場）などポストモダンのアプローチを取り入れることで、総合計画策定・自治体の政策立案プロセスがどのように変わっていくのか、具体的事例紹介をもとに考える。

[コーディネーター]

大住 莊四郎（関東学院大学）

[パネリスト]

河村 昌美（横浜市政策局共創推進室共創推進課担当係長）

大隅 啓一（鎌倉市経営企画部長（兼）経営企画課担当課長）

樋口 肇（小田原市経済部産業政策課地方創生担当課長）

栗原 聡（宮代町産業観光課商工観光室長）（コーディネーターによる代理報告）